慶應義塾大学　法学部　論述力

総　論

満　点 100 点	目標得点 65 点	試験時間 90 分	偏差値 法律:77 政治:76
大問数 1	〔問題難易度〕B ※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す		

Topics

1：現状私立文系最難関の慶應法学部であるが、英語と歴史で一定の点数をとらなければ、小論文（正式名称は「論述力」）は採点してもらえないことに注意が必要である。過去のお茶ゼミ生受験者から推測するところでは、単純計算で少なくとも５割を超えないと厳しい。

2：「論述力」は、課題文を要約説明した上で、自分の意見を論述するオーソドックスな出題であり、英語と歴史でボーダーラインにある人ほど、その出来が合否を左右する。

3：要約説明と意見論述の字数の比率は、07 年度は 500 字対 500 字、08・09 年度は 400 字対 600 字となっており、1000 字という総字数からすれば、自分の意見を述べる余地は思ったより少ない。

こんな力が求められる！

1：慶應法学部では、基本的論文力以上のものは求められないと言ってよい。例年問題冊子表紙にはその内容が、採点の観点（理解力・構成力・発想力・表現力）として明記されているが、要するに、多少難しい課題文を読解・要約し、それに基づいて自分の意見を論理的に述べる力である。

2：ただし、設問の要求が毎年変わるので、それに柔軟に対応できる力が必要である。過去問演習が最良の対策であり、お茶ゼミ「論文」の授業ではこれを徹底的に行っている。併願する人の多い文学部の過去問も共に演習することによって、一石二鳥の効果が期待できる。

参考図書

とくにないが、日頃の学習において、国語現代文で扱われる文章の中で、硬質な論説文を正確に読解する習慣をつけたい。

大 問 別 分 析

予想配点	理解力 30/100 点　構成力 30/100 点　発想力 20/100 点　表現力 20/100 点
時間配分の目安	要約に 30/90 分、意見論述に 60/90 分
字数	1000 字以内
出題形式	課題文型
テーマ	現代人の公私の関わり
出典	和田伸一郎『メディアと倫理―画面は慈悲なき世界を救済できるか』ＮＴＴ出版、2006 年
設問形式	要約と論述の混合
小問別難易度	※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す 全体としてＢだが、要約部分はＡ。

●解答のポイント＆対策等

【理解力】

慶應法「論述力」は、例年設問の指示が丁寧であるから、まずはこれを「理解」することが必要である。

2009 Ochanomizu Seminar All rights reserved.

設問は次の通り。

以下の文章を読み、「政治的空間としての〈公共空間〉」における責任と自由に関する著者の主張を400字程度でまとめなさい。そのうえで、「セキュリティー社会」についての著者の見解に対して、その是非も含めて、あなたの考えを述べなさい。

この設問には、４つのキーワードが与えられている。そこでまず、①政治的空間としての〈公共空間〉、②責任、③自由、④セキュリティー社会、という４つのキーワードの意味とそれぞれの関係を課題文から読み取ることから取りかかるべきである。ただし、要約の対象は、「「政治的空間としての〈公共空間〉」における責任と自由に関する著者の主張」となっているから、本文で言うと後半のアレントの引用までを対象にして、その論旨を上記①②③のキーワードの意味と関係に留意しながらまとめればよい。筆者はこのような〈公共空間〉について、かつての古代社会を念頭におきつつ、現代社会と対比して語っていることを要約に入れると、筆者の論理がわかりやすく表現できる。骨組みだけを示すとこのようになるだろう。

「現代では社会という保護された空間があって、ここでは行動への責任（②）が公共サービスによって免除され、人々はその責任のない発言をすることが許される。つまり責任なき発言の自由（③）が認められている。これに対して、政治的空間としての〈公共空間〉（①）とは、公的な事柄についての発言を自ら行動で引き受けて実行する責任（②）を果たして、他者にはできないことを自分だけができるという真の自由（③）が得られるような社会のことである。」

上記の骨組みだけで約200字であるから、あとはこれに本文から肉付けしていけばよい。

【構成力】

残る設問の要求は、「そのうえで」（＝要約を前提にして）、「セキュリティー社会」（④）についての著者の見解に対して、その是非も含めて、あなたの考えを述べなさい。というものである。

「セキュリティー社会」とは、上記にあるような保護された社会空間の中での無責任な自由を前提とし、そこから生じる他者への恐怖や不安を技術によって解決しようとする社会のことであるから、筆者はこれに否定的である。一方、筆者は政治的空間としての〈公共空間〉を肯定するのだから、

（A）筆者の主張に対して肯定的に論じるなら、セキュリティー社会には否定的に論じなければならない。

（B）筆者の主張に対して否定的に論じるなら、セキュリティー社会には肯定的に論じなければならない。

上記の設問は、答案の基本的論理構成として（A）（B）のいずれかを選択することを求めているのは明らかであり、ここを外した答案を書くと「構成力」では大きな失点を覚悟しなければならない。

仮に（A）で論じるなら、他者に対する不安を技術で解消することは不可能であるばかりか、技術に不備が少しでも発見されれば技術はその都度強化され、それが際限なく繰り返され、人間を監視する一方で不安は増大していくことになる、というような論理展開が考えられる。

仮に（B）で論じるなら、分業を原則とする現代社会の人々に、セキュリティー社会の外に出て、かつての古代ギリシャのような社会参画を要求することは酷であるから、セキュリティー社会は必要不可欠である、というような論理展開が考えられる。

【発想力】

さらに、それぞれの立場をとったときに、反対の立場からの反論を予想して、これに対応することができれば、「発想力」として評価されるであろう。

（A）で論じるなら、古代ギリシャでは市民であること自体が特権的であったが、現代ではそうでないのではないか、という（B）からの反論を予想し、現代人でも、〈公共空間〉に属すことは可能であることを示す方向が考えられる。その際、たとえば海外での陪審員制や日本でも今年度から導入される裁判員

2009 Ochanomizu Seminar All rights reserved.

制度を証拠として提示できればよい。

（B）なら、セキュリティー社会は現代人にとって不可避とするなら、現代の無責任な自由の氾濫という問題を放置するのか、という（A）からの反論を予想し、現代ではセキュリティー社会の技術が人々を不利益から守るため必要であることを示す方向が考えられる。その際、たとえば自らの属する組織が不正を行っていた場合、これを内部告発する者を保護するのはセキュリティー社会を前提しなければ不可能であることを証拠として提示できればよい。

このように、公共や社会に個人がどのように関わり、かつ関わるべきかという問題について、（A）（B）それぞれの立場に説得力を与えるような自分の視点を具体的に提示できれば、高評価を得ることができるだろう。

2009 Ochanomizu Seminar All rights reserved.